

## 医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

甲府病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご紹介ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

〔研究課題名〕人工膝関節全置換術患者における破局的思考に対しての術前因子の検討

〔研究責任者〕独立行政法人国立病院機構甲府病院 リハビリテーション科  
理学療法士 角田沙弥香

〔研究の背景〕人工膝関節置換術（TKA）の目的は変形性膝関節症（OA）患者の膝痛を改善し、生活の質（QOL）の向上をもたらすことであるとされています。83%以上の研究で80%以上の満足度を報告されておりますが、痛みや機能低下が遷延する患者も臨床経験します。破局的思考は痛みの強さや生活障害の程度と相関があると言われており重要な要素であるとされています。破局的思考は（Pain Catastrophizing Scale：PCS）という評価バッテリーを用いられることが多いです。PCSは実際の痛みまたは予期される痛みにおける破局的思考を測定する13項目の自己報告式尺度であり、反芻、無力感、拡大視の3つの下位尺度からなります。TKA術後の破局的思考に関しては検討が少ないため、実態を調査し、影響する因子を把握できれば遷延する機能障害にアプローチするための一助となると考えられます。

〔研究の目的〕

本研究の目的は第一に術前後のPCSの変化を調べること、第二に膝OA患者の基本情報や術前の機能が術後のPCSに与える影響を検討することです。

〔研究の方法〕

●対象となる患者様：2022年6月～2026年3月の間に独立行政法人国立病院機構甲府病院に入院したTKA患者様

●研究期間：院長承認後から 2026 年 11 月

●利用するカルテ情報：年齢、性別、BMI、体脂肪率、発症からの期間、手術前の SPPB (Short Physical Performance Battery), TUG (Timed Up & Go Test), 膝可動域 (屈曲・伸展), 術前 PCS, 退院時 PCS。TKA 患者の術前因子に対して術後の PCS がどのような影響を与えているのかを検討します。

[研究者の所属、職名及び氏名]

角田 沙弥香 独立行政法人国立病院機構甲府病院 リハビリテーション科 理学療法士  
渡邊 龍馬 独立行政法人国立病院機構甲府病院 リハビリテーション科 理学療法士  
山下 隆 独立行政法人国立病院機構甲府病院 整形外科 医師

[個人情報の取扱い]

収集したデータは、誰のデータか分からなくした (匿名化といいます) 上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針 (「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」) に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。この研究の結果はこの研究に関連する学会で報告し、関連する分野の学術雑誌に論文として公表する予定です。また、データベース上で公表することもあります。いずれの場合も公表する結果は統計的な処理を行ったものだけとし、あなたの個人の情報は一切公表しません。

得られたデータは、すべて鍵のかかるキャビネットおよび外部ネットワークと遮断されたパーソナルコンピュータ内にパスワードロックをかけて厳重に保存されます。保存期間は本研究終了 (あるいは中止) 後 5 年間とします。

[研究の参加について]

この研究への参加 (カルテ等の情報を利用すること) にご協力いただけない場合は、研究責任者等又は「問い合わせ先」にご連絡ください。研究にご協力されなくても、診療等において不利益を受けることはありません。ただし、ご連絡いただいた時期によってはこの研究の結果がすでに論文などで公表されているなど、データを取り除くことができない場合がありますことをご了承ください。

[問い合わせ先]

独立行政法人国立病院甲府病院

リハビリテーション科 理学療法士 角田沙弥香

電話 055-253-6131 (代表) FAX 055-251-5597